鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議
委員委嘱式及び第１回会議　会議概要

【開催日時】　平成 23 年 7 月 27 日(水)13 時 30 分～15 時 45 分
【場　　所】　鹿児島市役所別館 4 階第一委員会室
【出 席 者】
○委　員：石田尾委員、奥村委員、上池委員、北方委員、久保委員、黒江委員、花倉委員、清水委員、飛松委員、永山委員、松田委員、持増委員、山﨑委員、山本委員
（欠席：春山委員）
○事務局：窪島市民局長、瀬戸口市民部長、村山地域振興課長、枝元地域振興課主幹　ほか

【会次第】
１　委嘱式
(1)委嘱状交付
(2)市長あいさつ
２　第 1 回会議
(1)委員紹介
(2)委員長及び副委員長選出
(3)委員長あいさつ
(4)協議
①鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議設置要綱について
②鹿児島市コミュニティビジョン概要説明及び質疑応答・意見交換
③地域コミュニティ連携組織モデルイメージについて質疑応答・意見交換
３　その他

【会議の内容】（◎は委員長の発言、○は委員の発言、●は事務局等の発言）
１　委嘱式
(1)委嘱状交付
(2)市長あいさつ
２　第 1 回会議
(1)委員紹介
事務局より各委員の紹介
(2)委員長及び副委員長選出
委員長は石田尾委員、副委員長は山本委員をそれぞれ選出
(3)委員長あいさつ
(4)協議
①鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議設置要綱について
鹿児島市コミュニティビジョン推進戦略会議設置要綱について事務局説明

②鹿児島市コミュニティビジョン概要説明及び質疑応答・意見交換

事務局から鹿児島市コミュニティビジョンの概要について説明

○委　員

・町内会長や衛生連の副会長としての活動の立場から、自分たちの周辺で一番課題となっているのが、人材・担い手不足である。どういった方法で後継者をみつけるかをいつも悩んでいる。

・団塊の世代をまちづくりに取り込んでいくことが大切である。

・行政からも地域への参画の呼びかけをすることが大切である。

○委　員

・地域福祉の観点の会議を、市内を９カ所に分けて行っているが、町内会に加入しているか、していないかも課題になる。既存の小さい町内会では、人材、資金、支援の人の問題がある。このコミュニティビジョンではどの程度の規模を考えているのだろうか。

○委　員

・仕事と地域活動のバランスがとれていないのも課題である。男性は現職中に地域活動の経験がないと仕事をやめてから地域に入ってきても何をしていいのか分からない。町内会の総会などにはほとんど女性が参加している。

・若いうちに教育・講習などを受けるのも大切ではないか。そういった機会を行政だけでなく企業にも設けてもらいたい。

・私の町内も高齢化率が３２パーセントとなっており、急がないといけない問題である。

○委　員

・高齢化で人材確保が難しいという話もよくあるが、ひとつ成功事例を紹介すると、町内会の動きを全員にしっかりと知ってもらい、町内会長を毎年交代で受け持つという仕組みをうまく取り入れられた町内会があった。町内会長が毎年変わってもうまく動ける町内会ができたことはよかったと思う。

・県営住宅、市営住宅の住民の集まりがとても悪い。あいご会はかろうじてあるが、町内会がなくなってしまったところがある。公営の住宅なので、行政からどうにかできたら。利用者に、地域に貢献できる活動の仕方を定着させてほしい。

・法人会が動かないと企業が動けないということもある。地域のまちづくりに企業にも参加してもらうことも大切である。お祭りをするのに地域の法人会の協力をもらった。そのつながりから安心安全ネットワーク会議にも入ってきてくれている。見方を変えて、人を動かすとうまく動くこともあるのではないかと思っている。

○委　員

・資料２のイメージ図を見ると、苦労するのは事務局だと思う。ＮＰＯが地域に認められるというのはなかなか難しい。ＮＰＯにはパソコンが得意という人も多い。ＮＰＯを事務局に活用するというのもよいのではないか。そうするとＮＰＯも地域に入っていけるのでよいと思う。

○委　員

・資料２のイメージ図を見ると、これは校区ごとに立ち上げると思うのだが、今自分

たち八幡校区はすでに連携を行っている。今あるものをばらして作り直すとなると難しい。

・私は70歳になるが、いまだに若手である。現役の人たちは忙しいので、難しい。大きな町内会には人材もいるが、小さな町内会は人材が少なく、全ての専門部会に参加することが難しい。

◎委員長

・地域性もあるだろう。既存の組織があるところ、ないところがある。今日は意見を出し合って、方向性に沿った形で、どういった形がより可能なのかを出していただきたい。

○委　員

・コミュニティの衰退は農業の衰退と深い関係がある。農業地域では、職場が地域になる。すると自然と絆が生まれる。鹿児島市はサラリーマンが多い。職場と地域が離れているので、仕方がない部分はある。

・都市の住民はプライバシー意識も高い。地方とは違う、鹿児島市ならではのゆるやかな連携としてもよいと思う。

・事務局の人材育成を打ち出しているのはとてもいいと思う。今地域に必要なのはよいリーダーよりも、よい事務局人材。薩摩川内市でも事務局を行政でどうにかして欲しい、事務局長が必要といった要望がある。

・都市のコミュニティ再生は難しい。新しい鹿児島ならではの方式を考えた方がよいと思う。

○委　員

・個人情報保護は、いろいろな団体と交わるきっかけ作りを難しくしている。

・簡単に協働といっても難しい。行政による助けが必要である。

・八幡校区振興会はとてもよい取り組みをしていると思う。

○委　員

・町内会にも温度差がある。役員を1年で交代するところは、引継ぎが重要である。引継ぎがきちんとされないと、毎年ゼロからのスタートになる。市からの補助も活用できず、会員も恩恵を受けられない。恩恵を受けられないと町内会の魅力が低下する。魅力が低下すると加入率も低下する。

・ごみステーションのマナーも町内会の加入率に関係がある。行政からも未加入者に直接文書を送るなどの動きをとってほしい。町内会から未加入者の情報をもらうべきである。

・市議会でもこの問題に関してしっかりと審議すべきである。

○委　員

・「協働」と地域活性化に寄与する「リーダー」が重要である。

・高齢者が持っている知識、技術を地域に還元するというのが大切ということで、老人クラブへの加入をお願いしている。

・谷山では、単位老人クラブの会長が小学校で昔話をクラスごとに実施して大変好評だった。谷山小では恒例行事になっている。このような共に行動する活動を通して信頼関係が生まれる。信頼関係を作るというのが要である。

・市民の協働、リーダーの育成がないと、すばらしい計画があっても活きてこない。

◎委員長

・どの組織でも共通した課題が多い。

・この戦略会議はコミュニティの活性化が旗印である。既存の組織の財産をさらにグレードアップし、また、実態にあったものにすることが重要である。そのためには課題をきちんと把握することが大切である。

・人材育成については、リーダーや役員だけが動くのではなく、後継者と一緒に動く、育成する期間が必要。

・役職を重ねている人が多い。同じ人が重い役割を担うのではなく、役割分担が効率的である。

・ワークライフバランスの考え方が出てきていたが、とてもよい考え方だと思う。地域活動、家庭、仕事のバランスがとれていない。現職中に勉強会をするというのはとてもよい考えである。

・情報の受発信も大切だと思う。若い人はアイデアが豊富であるし、パソコンも使いこなせる。若い人をいかに活用することができるかが課題である。

・リーダー育成については、人材育成のあり方や研修が必要で、リーダーの質が大切である。そのためには住民の参加が必要であると思う。

・まちづくりにはキーマンが必要である。

③地域コミュニティ連携組織モデルイメージについて質疑応答・意見交換

地域コミュニティ連携組織モデルイメージについて事務局から説明

○委　員

・このビジョンの考え方を全部の地域に理解をしてもらってから、各地域コミュニティをどう作っていくか決め、各地域で話し合いをするのか。どこから始めるのかが難しい。

◎委員長

・組織形態の運営と人材という話があると思う。これは一つのモデルイメージとして作ってあると思う。皆さんとのイメージの違いもあると思う。

○委　員

・資料２のモデルイメージは、小学校区のイメージであるのか。

・校区公民館運営審議会と同じではないか。

○委　員

・校区公民館は小学校単位で、町内会、あいご会などいろいろな団体で集まっているはず。生涯学習をメインに活動している。まちづくりとは少し違っていると思う。

○委　員

・地域は教育だけ、福祉だけというものではない。包括的に支援をしなければならない。これまで単独で動いているところも多い。このイメージ図の中に地域包括支援センターなども加わっていくことができるのか。地域が見えるという意味では、地域包括支援センターも加わるとよいと思う。

・１４地域のコミュニティ協議会を大きな連携を作って、ネットワークの時期にきているのでは。もう少し大きなくくりでもよいと思う。地域公民館の活用と、地域福祉館もどう活用していくのか見えたほうがよい。

○委　員

・地域には活動が活発なところ、活発でないところとある。足並みがそろっているとすすめやすい。まずは足並みをそろえることも大切。地域の中でレベルが揃っていないところは大変。

○委　員

・校区公民館運営審議会は、生涯学習、青少年の育成、そして、町内会で取り組めない広域な課題に取り組んでいる。校区ごとに規模も違うが、部会に人を出すというのは小さな学校の場合にどうすれば良いのか。

◎委員長

・このモデルイメージは今まであるものを体系的に並べているものであろう。校区公民館運営審議会は鹿児島独自の取り組みである。小学校の中に校区公民館があるということは、コミュニティの核が基本的にできていると言える。この財産を生かしながら、この中でももれているものをどのように大きなネットワークでくくり、生かしていくかが重要であると思う。

・このイメージ図はダブっていると感じる。この資料はあくまでもたたき台と考えていただきたい。

○委　員

・エリアを小学校区にするというのはよいと思う。それは親子の交流という取り組みがある地域だから。

○委　員

・エリアを小学校区にするのはよいと思う。ほとんどが小学校区ごとの行事である。

○委　員

・鴨池小学校校区には、真砂町、真砂本町、鴨池新町がある。真砂町、真砂本町は古くからの町、一方鴨池新町は新しい地域。

・自分は鴨池新町に住んでいるが、町内会ではなく、管理組合である。管理組合に入っているだけで生活には全く不自由がない。地域コミュニティに参加しようという動機づけが難しいと思う。

・市民に伝えるにはもっと分かりやすい動機づけが必要であると思う。夏祭りなどはいい動機づけになると思う。

・一つひとつの分散した町内会が、ある適したコミュニティの規模を持つと有効性があるのだなと感じる。

・それぞれの地域で事情が違うので、シミュレーションが大切だと思う。動機付けのためにそれぞれの地域でシミュレーションをして議論を進めていかないといけない。

○委　員

・自分たちの住むまちを愛する気持ちが大切。休みをとってでも地域づくりに参加して欲しいと思う。

◎委員長

・それぞれの地域の実態にはかなりの温度差があると思う。実態を検証しながら次に進めていきたいと思う。

○委　員

・モデル地域での取り組みはもう２３年度から始めるのか。

●事務局

・２３年度中に選定を行い、２４年度から取り組みを始める予定である。

○委　員

・校区公民館にも様々なスケールがある。いろいろなケースでモデル地域を選んでもらえたら。それを参考に次に活かせるのではないか。

◎石田尾委員長

・次の会議までに、現在具体的に取り組みを進めている、八幡と真砂から参考資料を提出していただきたい。

３　その他

今後のスケジュールについて事務局から説明

○委　員

・第２回が９月となっているが具体的にはいつ頃か。

●事務局

・９月最終週で考えている。できるだけ早く決めてご連絡する。

○持増委員

・資料は事前にもらえるのか。

●事務局

・はい。

◎委員長

・本日の議題の全てを終了する。事務局に進行をお返しする。

●事務局

・本市としては、コミュニティビジョンの実現に向けて、力を入れていきたい。事務局サイドに人的支援、市の補助を行いたいと思っている。市職員の活用も考えていきたい。今ある地域資材、人的資材を活用しつつ、バランス良くモデルを作ってフィードバックしてこの会議で検証していくことを考えている。協力をお願いしたい。